

基本目標④

防災インフラ整備

阿蘇の暮らしを守り、
誰もが安心して過ごせるまち

頻発する自然災害に備え、ハード・ソフト両面からの防災・減災対策を強化し、地域住民や関係機関との連携による自助・共助・公助の体制づくりを進めます。また、道路網や橋梁、上下水道、情報通信インフラの老朽化対策を行い、公共交通の維持・改善にも取り組みます。市民の日常生活や地域経済を支えるインフラを持続的に維持・更新していくことで、将来にわたって快適で安全な暮らしを確保します。

4-1 安全で安心な都市整備



現状と課題

現状

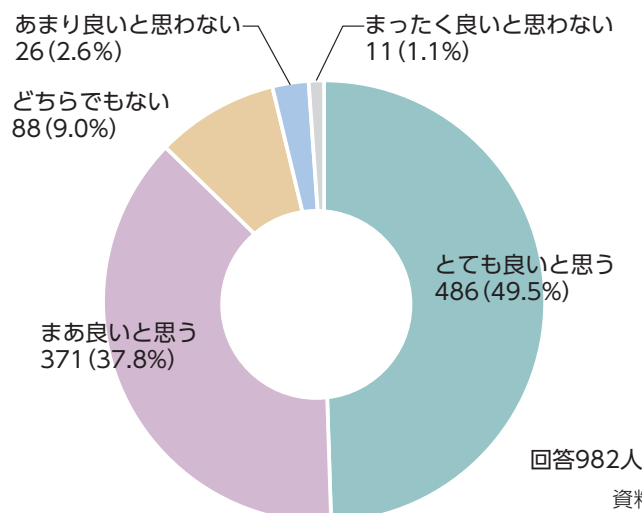
- 補修済橋梁数は毎年着実に進捗しましたが、近年の人件費や資材価格の高騰が計画に与える影響を見通しながら事業を進めていく必要があります。
- 舗装更新延長については、表層の経年劣化が著しい路線が多いため、個別計画に基づき優先度を決め計画的に補修、舗装更新を進めています。
- 道路改良延長は、高い達成率で推移しており、今後も個別計画に基づき、優先度を決め計画的に目標達成に向けて取り組んでいきます。
- 情報通信格差を解消するため、光ネットワークの基盤整備を行いました。
- 公営住宅は、令和6年度(2024年度)末時点、32団地238棟832戸を管理していますが、耐用年数を超過している住宅が6割を超えていることから、長寿命化計画に基づき、住棟ごとに、建替え、改善、修繕等の活用手法を定め、効率的に事業を実施する必要があります。

課題

- 道路や橋梁について、社会情勢の変化や老朽化の進み具合によっては、維持管理に関する計画の見直し又は予算の確保が課題です。
- 道路拡幅改良の要望数に対し、未着手の路線が多い状態となっています。
- 資材価格の高騰などにより、河川護岸整備の事業費が増大しています。
- 光ネットワークの基盤整備後、10年以上が経過しており、光ネットワークの維持のための設備やシステムの更新が必要です。
- 公営住宅は、長寿命化計画に基づく計画的な建替え、改善、修繕、集約再編事業の実施と衛生面への対応と予算の確保が必要です。

関連するデータ

中九州横断道路（大分～阿蘇～熊本）の整備についてどう思いますか？



回答982人

資料：市民アンケート調査

成果指標

指 標	現状値 (R6)	目標値 (R10)
補修済橋梁数	37橋	52橋
舗装更新延長	7.5km	9.6km
道路改良延長	429.7km	431.0km
河川護岸延長	480.0m	530.0m
市営住宅建替え改築戸数	226戸	276戸

主要施策	概 要
道路施設の整備・長寿命化	計画的な維持管理・補修・整備を行い、車や歩行者が安全かつ安心して通行できる環境を整えます。
河川施設の整備等	計画的な河川維持管理整備を進め、災害時の安全確保を図ります。
デジタル 地域情報基盤の整備	市民ニーズや情報通信技術の動向を踏まえながら、情報通信格差が生じないように情報通信ネットワークの安定運用・充実を図ります。
公共施設 安全・安心で快適な市営住宅の提供	ユニバーサルデザイン※63 を取り入れた市営住宅の建替、阿蘇市公営住宅長寿命化計画に基づく計画的な改修を実施します。

主な事務・事業

橋梁点検・補修	光ネットワーク維持業務、光ネットワーク環境機器更新
舗装更新	住生活の基盤となる良質な公営住宅の供給（建替事業）
道路新設改良	維持管理や耐久性の向上等を踏まえた既存公営住宅の長寿命化（修繕・改修事業）
河川改修	公営住宅の用途廃止及び解体撤去（集約再編事業）

関連する計画	
阿蘇市国土強靱化地域計画	阿蘇市公営住宅長寿命化計画
阿蘇市橋梁長寿命化修繕計画	阿蘇市営住宅総合基本計画
阿蘇市道路（舗装）個別施設計画	

※63 ユニバーサルデザイン…年齢・性別・障害の有無などの違いにかかわらず、最初からできるだけ多くの人が利用しやすいように、建物や製品・サービスなどを設計する考え方。

4-2 災害に強いまちづくり



現状と課題

現状

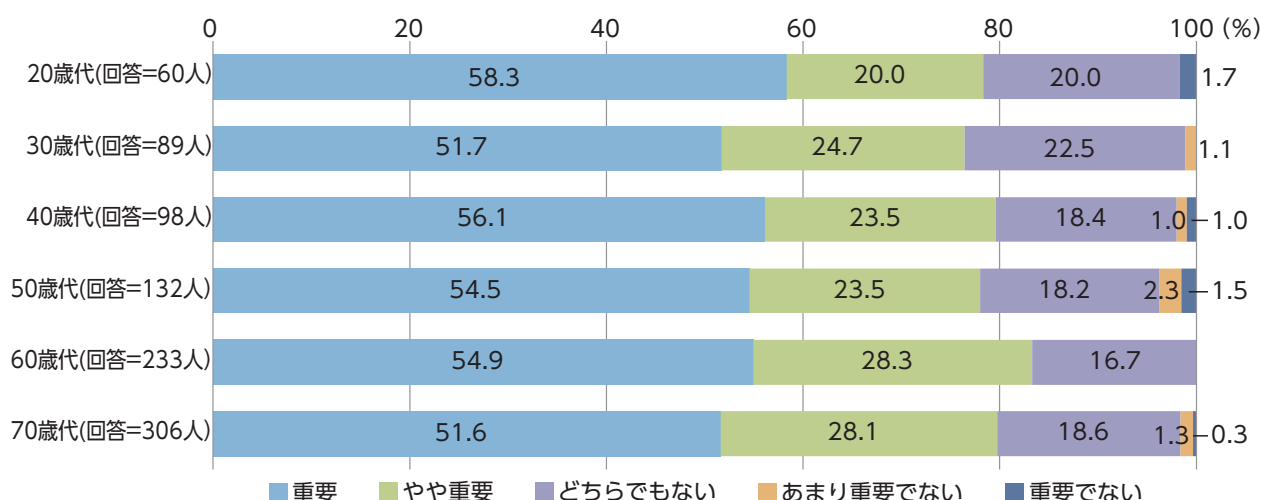
- 地区防災計画の作成は、11地区が防災計画を作成し目標に達することができました。今後も危機管理監、防災士連絡協議会、自主防災組織が連携し、防災学習や避難訓練を実施することにより、地区防災計画の作成につなげ、地域の防災力向上を図ります。
- 戸建住宅耐震化率は、前期計画中は順調に進捗し目標の47.3%を達成しましたが、個別計画に基づき後期目標を引き上げたものの停滞し、耐震化が図れませんでした。
- 市有建築物耐震化率は、毎年順調に進捗し、目標を上回って達成しました。
- 民間建築物耐震化率は、前期計画では令和2年(2020年)に大きく伸び52.9%となりました。後期計画では60%まで目標を引き上げましたが、わずかに届かない状況でした。

課題

- 災害時の自助、共助、公助の連携は必須であり、共助の中核となる自主防災組織の体制強化や地域の防災リーダーとなる人材育成が必要です。
- また、大規模災害や気候変動による長期の避難生活の質の向上を図るための備蓄品の更新をはじめ、ハード・ソフトの両面から対策を進める必要があります。
- 耐震化工事を実施するには、高額な費用が掛かるため、補助金の拡充や支援策を図る必要があります。

関連するデータ

「避難所や備蓄品などの災害への備え」の重要度（年代別）



資料：市民アンケート調査

成果指標

指 標		現状値（R6）	目標値（R10）
地区防災計画の作成		11行政区	28行政区
戸建木造住宅耐震化率		47.5%	50.0%
市有建築物耐震化率		47.0%	60.0%
耐震化率	水道事業	88.7%	90.0%
	下水道事業	73.7%	76.6%

主要施策	概 要
デジタル 防災・減災対策の充実	国・県・市区町村、市民、事業者、自主防災組織等との連携強化を図りつつ、地域防災計画や業務継続計画等を不断に見直し、激甚化・多様化する災害にも対応できるよう、防災アプリや様々なデジタル技術も活用しながら、ハード・ソフトの両面で災害対応体制の強化・充実を図ります。 また、防災訓練の実施や防災教育・啓発活動を通して、市民の防災意識の向上を図り、自主防災組織や防災リーダー・防災士の育成、活動支援に取り組みます。
公共施設 耐震化の促進	災害に強いまちづくりを目指し、「建築物耐震改修促進計画」に基づき、計画的に公共施設の耐震化に取り組むとともに、住宅や建築物の耐震化を促進し、震災時の被害軽減を図ります。
災害に強いライフラインの確保	重要施設や上下水道管路の耐震化を進め、災害時における水道水の安定供給と、適正な汚水処理機能を確保します。

主な事務・事業

自主防災組織や防災リーダー・防災士の育成・活動支援	上下水道管路の耐震化
防災情報の発信力強化とデジタル技術を活用した防災対策	木造住宅耐震（診断、改修、建替）事業補助金
防災拠点施設や避難所の環境整備	

関連する計画	
阿蘇市国民保護計画	阿蘇市国土強靱化地域計画
阿蘇市地域防災計画	阿蘇市耐震改修促進計画
阿蘇市業務継続計画	阿蘇市上下水道耐震化計画
阿蘇市受援計画	阿蘇市公共施設等総合管理計画・個別施設計画

4-3 公共交通体系の充実



現状と課題

現状

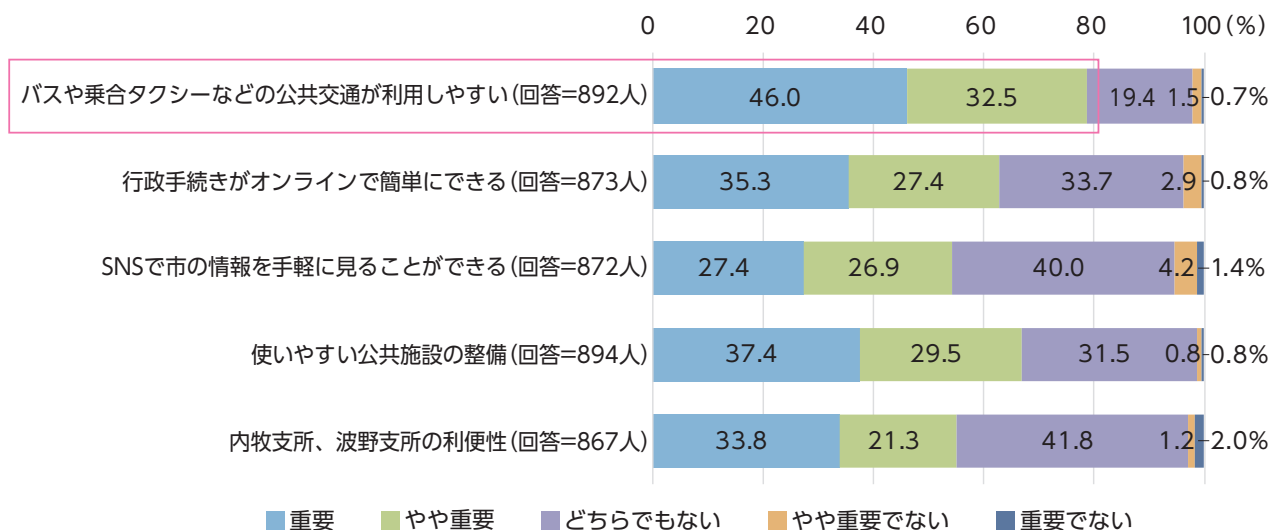
- 公共交通の利用者数は、路線バスと乗合タクシーの合計利用者数を目標とした前期計画においては、令和元年(2019年)に目標に近づいたものの、令和2年(2020年)はコロナ禍の影響で大きく落ち込みました。
- 後期計画では、路線バス、乗合タクシーそれぞれ目標を設定し、路線バスの利用者数は令和5年(2023年)から大きく回復した一方で、乗合タクシーの利用者数は減少傾向にあります。

課題

- 運送業界の運転手不足が深刻化しています。
- 自家用車を持たない人や観光客の移動手段の確保が課題です。
- 通勤・通学に利用する公共交通の利便性が課題です。

関連するデータ

行政サービスの分野で重要だと思うこと



資料：市民アンケート調査

成果指標

指 標	現状値 (R6)	目標値 (R10)
公共交通利用者数 (路線バス)	71,131人	78,300人
公共交通利用者数 (乗合タクシー)	2,718人	3,200人

主要施策	概 要
公共交通 地域公共交通の維持・確保充実	自家用車を持たなくても、通学・通勤・買い物をはじめ、食事や遊びなどの市民の日常生活や、観光客・市外からまちづくりに関わる方々にも対応できる移動手段を確保するため、既存バス路線の再編や乗合タクシー等のコミュニティ交通の拡充に取り組みます。 また、鉄道、タクシー、バス等の交通事業者と連携して、すべての世代や立場の人々にとって利用しやすく持続可能な公共交通ネットワークの構築に取り組みます。

主な事務・事業

地方バス運行特別対策事業	JR 九州との連携
乗合タクシー運行補助事業	波野地区福祉バス運行事業



路線バス

4-4 安全な水の安定した供給と 適正な汚水処理



現状と課題

現状

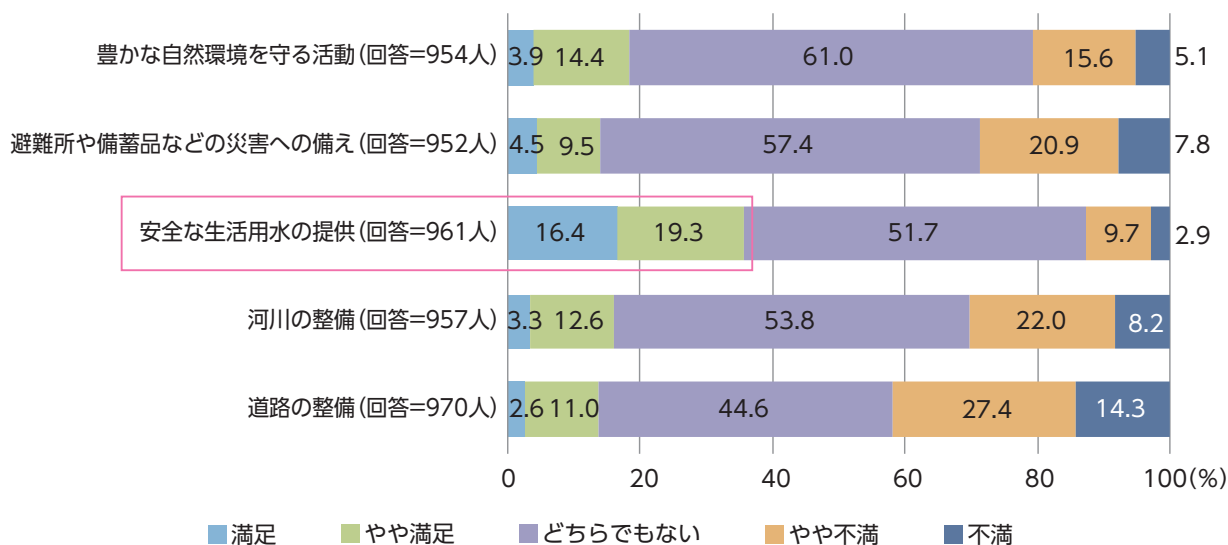
- 有収率※64 は、前期計画の基準値から大きく進捗したものの目標の82%には及びませんでした。
- 水道料金の収納率は平成29年(2017年)に伸びて以降、毎年前期計画目標の95%を達成しました。後期は目標を97%に引き上げたものの実績が停滞し、目標未達となりました。
- 水道事業の自己資本構成率は、前期計画ではおおむね目標の68%を達成したため、後期では目標を70%に引き上げたものの目標には達成しませんでした。
- 水道施設の耐震化率は、前期計画では進捗を続けましたがわずかに届かず、後期では令和3年(2021年)以降実績が伸びず、目標の90%には未達となりました。

課題

- 国庫補助金の縮小に伴い、改築更新や未整備地区の早期整備が困難な状況にあります。
- 汲取り便槽及び単独処理浄化槽からの転換工事を推進する必要があります。
- 収益が減少する一方で老朽化した管の交換や整備などの費用が増大しています。また、過疎化に伴う維持管理コストの増加も懸念されます。
- 有収率が伸び悩んでいます。
- 料金改定等の財政の健全化が課題です。

関連するデータ

インフラの分野で満足・不満と感じていること



資料：市民アンケート調査

※64 有収率…浄水場や配水場から送られる配水量に対する、水道料金で収入となる水量(有収水量)の割合を表す数値。

成果指標

指 標		現状値（R6）	目標値（R10）
有収率	水道事業	75.0%	82.0%
	下水道事業	60.3%	65.0%
収納率	水道事業	95.1%	97.0%
	下水道事業	98.1%	99.0%
自己資本構成比率	水道事業	69.4%	70.0%
	下水道事業	72.1%	74.0%

主要施策	概 要
上下水道事業の健全経営	健全経営により安全で安定した水道水の供給と、汚水処理を通じた快適な生活環境の実現に向けた投資の合理化や財源見直しを料金の改定も含めて検討し、経営基盤を強化します。
計画的な老朽管の更新	老朽化による漏水や損傷のリスクが高まる配管等を計画的に更新し、施設機能の安定と有収率の向上を図ります。

主な事務・事業

施設・管路の維持管理	料金・使用料等の徴収
水質管理	

関連する計画	
阿蘇市水道事業基本計画	阿蘇市下水道事業全体計画
阿蘇市水道事業経営戦略	阿蘇市公共下水道事業計画
阿蘇市水道事業アセットマネジメント※65	阿蘇市公共下水道事業経営戦略

※65 アセットマネジメント…公共施設を市民の資産として捉え、長期的な視点で費用対効果を最大化しながら、適切な維持管理、計画的な更新、廃止・再編などを計画的に行う「経営管理手法」のこと。